

新型コロナウイルスの下水サーベイランスの実施について

1 調査内容

- (1) 採水場所 都南浄化センター※1（盛岡市）
 - (2) 採水頻度 週1回（毎週水曜日）
 - (3) 調査内容 下水中に含まれる新型コロナウイルスのRNA量※2
- ※1 盛岡市、滝沢市、雫石町及び矢巾町の下水処理を行う施設
- ※2 ウイルスを構成する一部のリボ核酸の量

2 調査年月日

令和6年3月27日（水）〔第13週：3月25日～3月31日〕

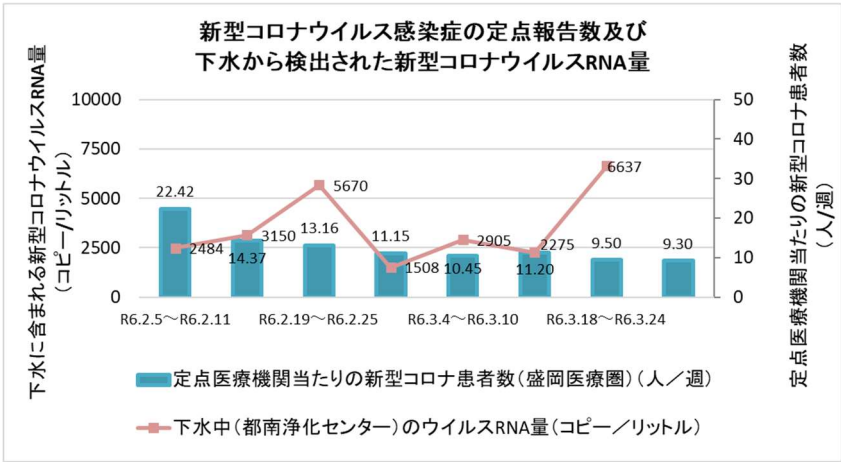
3 調査結果

地域	第12週（3月18日～3月24日）		第13週（3月25日～3月31日）	
	（下水検体採取日） 3月21日		（下水検体採取日） 3月27日	
	下水中の新型コロナウイルスRNA （コピー／リットル）	【参考】 定点医療機関当たりの 1週間の新型コロナ患者 数 （人／週／機関）	下水中の新型コロナウイルスRNA （コピー／リットル）	【参考】 定点医療機関当たりの 1週間の新型コロナ患者 数 （人／週／機関）
盛岡医療圏 （盛岡市+県央）	6637	9.50	検出下限値未満※	9.30
（参考） 県全体	—	9.51	—	9.16

※検出下限値：1500 コピー／リットル

【評価】

- ・先行自治体の下水サーベイランスにおいては、調査数値と定点報告数の間に、一定の相関が認められない場合もあることを踏まえ、補足的な数値として評価すべきもの。
- ・令和6年第6週から第13週にかけての、下水中の新型コロナウイルスRNA量と、定点医療機関当たりの1週間の新型コロナ患者数の相関関係については、今後も調査を継続し、動向を注視していく必要がある。



下水サーベイランスとは

- ・新型コロナウイルスの感染者は症状の有無にかかわらず、糞便や唾液中にウイルスRNAを排出することが知られています。
- ・下水中の新型コロナウイルスRNA濃度※を検査、監視する下水サーベイランスは、無症状感染者を含めた感染状況を反映する客観的指標としての活用が期待されています。
- ・岩手県では、定点把握による患者報告数の増減傾向を補完する指標として、令和6年2月から週1回の頻度で当該サーベイランスを試験的に開始しました。
- ・下水サーベイランスは、下水からの感染の危険性を調べるものではなく、下水中のウイルスについて、地域の感染状況を反映する「情報源」として測定するものです。
- ・WHO（世界保健機関）は、「感染者の糞便から新型コロナウイルスに感染するリスクは低い」と公表しており、下水から新型コロナウイルスに感染するリスクは低いと考えられます。

※ 下水中の新型コロナウイルスRNA濃度

定量PCR法によって検出された下水1リットルに含まれるウイルスの遺伝子数（コピー）であり、この値が大きいほど下水の処理区域内に感染者が多く存在していると推定されます。